

令和5年度学校評価の報告

学校教育法第42条、第43条および第133条並びに学校教育法施行規則第66条、第68条及び第189条に規定される学校評価を実施した。評価は、東濃看護専門学校の学校評価の方針（平成30年3月）に従い、自己評価、自己点検、個別行事総括3構成で実施した。

【学校評価の目的】

学校評価は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見し、その解決を目的としている。このため、評価行為は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見するために実施する。評価行為によって発見された課題は、解決方法を検討し、次の機会には実行し、その結果を検証することとしており、評価から検証までを一連の過程として実施するものである。

<自己評価>

評価項目ごとに、学校長以下11人の職員のうちから関係職員を選び評価者とした。評価項目の達成状況は、達成（評価項目の求めるレベルを達成している、現在の達成度を維持する）、取り組み中（課題の解決に取り組んでいる、達成のレベルに到達していない）、不十分（取り組みが不十分、未着手）の3段階で評価した。

また、評価項目の適・否については、評価項目が適切であるかを適（適切な評価項目）、否（不適切、不要、評価不能、将来に亘って達成が困難な評価項目）の2段階で評価した。

1 評価表

（資料1）学校評価自己評価表

2 評価の結果

1) 学校評価自己評価表（評価項目の達成状況）

項 目	延評価者数	延評価者の内訳		評価件数分布（構成比）		
		評価件数	無回答	達成	取組中	不十分
1 教育理念・目的・目標	40	40	0	97.5%	2.5%	0%
2 カリキュラム	49	49	0	100%	0%	0%
3 授業課程	77	77	0	94.8%	5.2%	0%
4 実習指導体制	77	77	0	94.8%	5.2%	0%
5 学校組織・運営	157	157	0	85.4%	14%	0.6%
6 教育環境	80	80	0	97.5%	2.5%	0%
7 学修・進路	28	28	0	96.4%	3.6%	0%
8 学生生活への支援	50	50	0	88%	12%	0%
9 地域との連携	20	20	0	85%	15%	0%
合 計	578	578	0	92.4%	7.4%	0.2%

※延評価者数とは、評価項目を担当した職員の延数

※評価件数分布は、評価件数に対する各評価の構成比

- ・全9項目の達成の平均は92.4%で昨年より1.6ポイント上昇した。昨年より評価が上がった項目は7項目、下がった項目は2項目あった。
- ・90%以上の達成は7項目で「2 カリキュラム」は100%となった。
- ・最も低かった項目は「9 地域との連携」で達成は85%で昨年より改善がみられる。内訳は「教育活動を通して地域社会への貢献を積極的に行っている」が90%、「地域の諸資源を学習教育活動に取り入れている」が80%であった。
- ・「5 学校組織・運営」は達成85.4%であったが、「教職員が働きやすい環境を整備している」は達成60%・取組中30%・不十分10%であり、時間外労働やストレスケア等、教職員への支援に関する評価は低い結果となった。

2) 学校評価自己評価表（項目の適否）

項 目	延評価者数	延評価者の内訳		評価件数分布（構成比）	
		評価件数	無回答	適	否
1 教育理念・目的・目標	40	40	0	100%	0%
2 カリキュラム	49	49	0	100%	0%
3 授業課程	77	77	0	100%	0%
4 実習指導体制	77	77	0	100%	0%
5 学校組織・運営	157	157	0	100%	0%
6 教育環境	80	80	0	100%	0%
7 学修・進路	28	28	0	100%	0%
8 学生生活への支援	50	50	0	100%	0%
9 地域との連携	20	20	0	100%	0%
合 計	578	578	0	100%	0%

- ・9項目について全評価者が「適」との回答であった。

3) コメント

コメント数は15件。コメントが記載された項目は11項目。不十分の評価に付されたコメント数は1件あった。また、評価項目以外の課題についてのコメントはなしであった。

(次頁コメント一覧参照)

【コメント一覧】

大項目	達成評価	項目適否	コメント
中項目			
評価項目			
3 授業課程			
(1) 授業計画			
5) 授業準備のための時間が取れる体制を整えている	取組中	適	充分とは言えず、自宅で行うことも多い。
(2) 授業方法			
2) 単元ごとの指導計画・指導案を作成している	取組中	適	不十分な教員がいる。
(3) 授業評価			
3) 学生からの評価を踏まえて指導計画や指導案を見直している	達成	適	学生による授業アンケートへの意見記入が少ないため、アンケートの改善や学生への説明を加えるなど工夫が必要。
4 実習指導体制			
(1) 実習施設の選択と整備			
3) 実習施設は指導体制を整備している（実習指導者講習会の受講、指導者数の充実）	達成	適	施設全体として指導者数は充実しているが、各部署で日々の実習指導を担当するスタッフの配置や体制が不十分な場合がある。
	取組中	適	施設によっては、不十分などところもある。近年、施設側の人手不足もあり、指導体制が変化している。
(3) 実習指導者と教員の協同体制			
2) 実習指導者は実習計画をもとに、指導計画を立案・実施・評価している	取組中	適	している施設とそうでない施設がある。
(4) 臨地実習における安全対策			
2) 学生の事故発生時の対応について明示している	達成	適	インシデントやヒヤリハットにおいても、レポートを作成し安全対策・教育を強化していく。
5 学校組織・運営			
(5) 教職員への支援			
2) 教職員が働きやすい環境を整備している（時間外労働削減、年次休暇取得、ストレスケア…）	取組中	適	取り組んでいるが、病欠者があり予定外の負担が増加している。
	不十分	適	ストレスケアが不十分。逆にストレスがかかる時がある。
(7) 自己点検・評価			
1) 自己評価・自己点検のシステムが作られ、機能している	取組中	適	ラダーを見直し、今年度より少しずつ個別目標に取り入れられている。
6 教育環境			
(1) 施設設備			
4) 教室などの施設設備や機械器具、模型及び図書は学生が自由に活用できる	取組中	適	一部、活用の制限がある（模型など）。
7 学修・進路			
(2) 中途退学			
1) 学修困難者などに対する支援体制がある	達成	適	最後の学年には、適時学習会を設け支援している。
9 地域との連携			
(1) 地域連携			
1) 教育活動を通して地域社会への貢献を積極的に行なっている	達成	適	今年度は今までよりも強化できた。
			今年度はこれまでの感謝の意を込め、積極的に地域貢献を行った。
10 評価以外の課題			

＜自己点検＞

評価は、点検項目ごとに、その項目に精通した教職員が評価し教務主任が総括した。

評価表は、看護師養成所（2年課程）自己点検表（岐阜県、平成27年）を用い、適、否、該当なしの3段階で下記の点検項目に沿って実施評価した。

1 評価表

（資料2）看護師養成所（2年課程）自己点検表

2 評価結果

各点検項目は次のように判定された。

点 検 項 目	項目数	判 定 数			判 定（ 割 合）		
		適	否	該当なし	適	否	該当なし
1 学生に関する事項	11	9	1	1	81.8%	9.1%	9.1%
2 施設設備等に関する事項	106	100	0	6	94.3%	0%	5.7%
3 教員等に関する事項	23	19	1	3	82.6%	4.3%	13.1%
4 教育に関する事項	16	16	0	0	100%	0%	0%
5 実習に関する事項	31	30	1	0	96.8%	3.2%	0%
6 変更承認及び届出その他に関する事項	3	3	0	0	100%	0%	0%
7 その他	8	8	0	0	100%	0%	0%
合 計	198	185	3	10	93.4%	1.5%	5.1%

3 否と判定した点検項目の判定理由及び改善等について

1) 評価件数

「否」と判定したものは3項目で3件あった。

2) 点検項目別判定理由及び改善等

点 検 項 目	判定理由及び改善等
1 学生に関する事項 (5) 他の分野で働く社会人に対して、その経験に配慮した入試を設けているか。	社会人入試は、2年課程であり配慮していない。
3 教員等に関する事項 (13) 実習指導教員（実習施設で学生の指導に当たる看護職員）は施設数を踏まえ適当数確保しているか。	実習指導教員は確保していない。専任教員の臨地実習指導時間は規定時間内で実施できている。
5 実習に関する事項 (6) 病院以外の実習の単位数は、在宅介護論の実習を含め指定規則に定める単位数の1割から3割程度の間で定めること。	母性看護学実習の主たる実習施設がクリニックであるため、病院以外の実習が全体の3割を超える。実習環境としては、病院実習に準じて行っているが、病院実習時間を増やすよう検討を続ける。

<個別行事総括>

行事総括は、個別行事の担当者が、主要学校行事が完了する都度行った。総括の内容は、行事の概要について他、反省、問題点、要改善点、課題等を取りまとめ、職員会議、教務会議などの関連会議にて報告した。報告した学校行事は下記の通り。

1 評価の方法

- 1) 評価者 個別行事の担当者
- 2) 評価時期 主要学校行事が完了する都度
- 3) 総括の内容 行事の概要・評価のほか、反省、問題点、要改善点、課題等を記載している。
- 4) 総括の報告 担当者が職員会議にて報告した。

2 総括を作成した個別行事

- 1) 教育研修
 - (1) 期日 令和5年5月9日
 - (2) 総括（別紙）令和5年度 教育研修総括
 - (3) 報告 6月職員会議
- 2) 同窓会
 - (1) 期日 令和5年6月17日
 - (2) 総括（別紙）令和5年度 同窓会総括
 - (3) 報告 7月職員会議
- 3) 消防訓練
 - (1) 期日 令和5年11月1日
 - (2) 総括（別紙）令和5年度 消防訓練総括
 - (3) 報告 12月職員会議

<課題の解決>

・評価項目で「不十分」「否」、個別行事総括で「問題点・課題」とした事項は、教務会議または職員会議で課題を整理し、課題解決策及び次年度課題への取り組みについて協議した。協議した結果をさらに学校評価委員会で重要な課題とそれ以外の課題に区分し、課題の改善に向け組織的に取り組んだ。